

# 裾野市史

第七卷

資料編

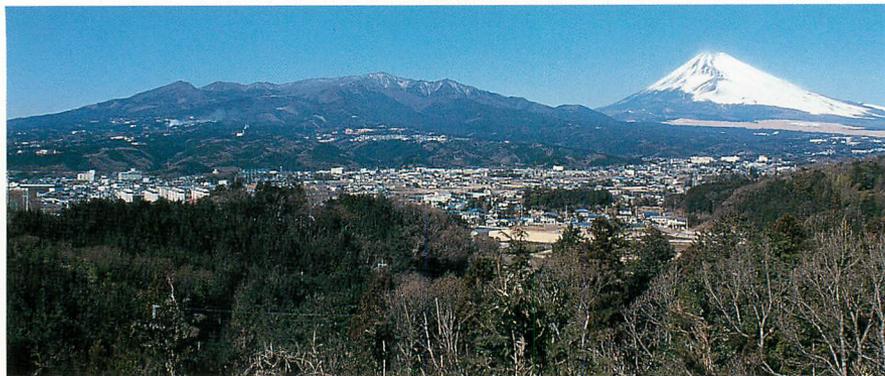
民

俗

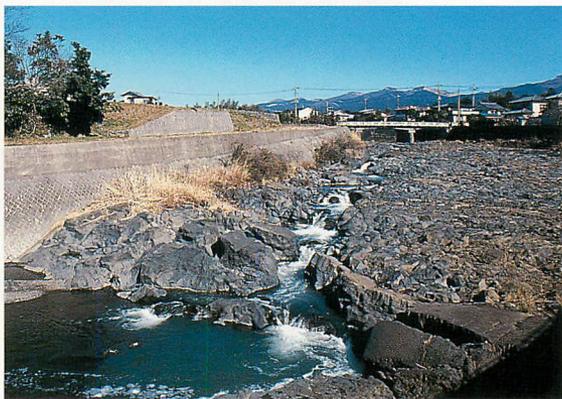
題字  
前裾野市長  
市川  
武



馬場観音での念仏（公文名）



山に囲まれた市街地（右・富士山、左・愛鷹山）



ダタラが露出した黄瀬川（石脇）



深良用水（久根）



茅葺きの民家（富沢）



ヤウツリガユをすする棟梁（葛山）



エブリでのシロカキ（富沢）



休日の田植え風景（茶畑）



稲干し（深良）



パイスケ作り (茶畑)



茶摘み (富沢)



二番正月の団子飾り（葛山）



初午に参る子供たち（茶畑）



初節句の鯉のぼり（御宿）



浅間神社の春祭り（須山）



秋祭りでの田向囃子（須山）



ムラを練り歩くヨシダサンの神輿（公文名）



金沢堤の水神祭り (金沢)



甲州街道と観音堂 (深良)

## 発刊のことば

裾野市長 大橋 俊二



平成三年の資料編「深良用水」発刊以来、市史編さん事業は、市民の皆様方の温かい御支援と関係各位の御努力を賜り、昨年度までに資料編の「考古」「近現代Ⅰ」「古代・中世」「近世」を刊行してまいりました。

社会環境が大きく変動する中において、二十一世紀を間近に控え、市民生活の豊かさを求めるニーズは高まっており、

このような時代背景であればこそ、郷土の歴史を正しく理解し、「ゆとりのある市民生活とやさしい行政のまち 健康文化都市裾野」を創造していくことが大切であります。

市史編さんは、こうした課題に応えるものとして、大きな意義を持つものであります。

今回は、資料編「民俗」を刊行いたします。

報告書として既刊されております「葛山の民俗」「深良の民俗」「茶畑の民俗」「富沢の民俗」の中から厳選された資料に、新たな資料を加え編さんされました本書は、自然環境の変化の中でそこに住む人々が、それぞれの特色ある豊かな民俗を形成し伝えてきたことや、生活様式を持ってきたことが明らかにされていますので、裾野市の伝統文化の全体像に対する理解が大いに深まるものと確信しております。

市史が多くの方々に親しまれ、各方面で活用されるとともに、裾野市の歴史研究がより一層向上し、郷土への理解と愛着が深まることを願うものであります。

結びにあたり、貴重な資料の提供をはじめ、様々な御協力を賜りました多くの皆様方や関係機関および調査・執筆・編集にあたられました委員の先生方に、心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

## 刊行にあたって

裾野市史編さん専門委員 福田アジオ

裾野市史資料編の一冊として「民俗」をお届けします。この民俗編は今までに刊行してきた資料編の各巻とずいぶん趣が違います。ここに記述してある内容は主として地域の各地で日頃市民の皆様が行っていたり、接していたりしているごく普通の事柄ばかりです。珍しいことは書かれていませんし、また難しいことも書かれていません。市民の皆様が親しんでいただけの書物であると思っております。

民俗編は民俗学という学問を基礎に記述されております。民俗学は、特別な出来事を過去に書かれた文字資料から発見するのではなく、また過去の事物を土のなかから発掘するのでもなく、現在生きて暮らしている人達が毎日の生活のなかで行っている事象を把握し、そこに歴史を発見する学問です。日常の言葉で言う習わし、しきたり、言い伝えが民俗と呼ばれるものです。それを市民の皆様から教えていただき、記録するとともに、分析して、裾野地域の生活の歴史を明らかにしようとしたものです。

本書を読まれて、ご自分が日頃している何でもないことが記述されていることを発見して驚かれる方

もいるでしょう。また忘れていた懐かしい昔の行事を思い出される方もいるでしょう。あるいは地域の行事や活動を活発にするヒントを得る方もいるでしょう。民俗は現在あるいは近年まで市域でごく当たり前に行われてきた事柄ですので、その読み方も利用の仕方も様々です。十分に活用していただければと思います。

この民俗編を編集する作業は、市史編さん事業の開始とともに始められました。すでに九年になります。この間に私たちは市内のほとんどの地区をお訪ねして、地域の古老の方々に詳しくお話を伺い、また祭礼や行事を見せていただき、記録をとりました。お世話になった市民の皆様の方は大変な数にのぼります。この一巻に価値があるとすれば、それはすべて市民の皆様のご協力、ご指導のお蔭です。厚くお礼申し上げます。ただ、主としてお話を伺って記録するという方法による記述ですので、私どもの理解力不足から思わぬ間違いを犯しているかもしれません。その点をお詫びし、お許し賜りたくお願い申し上げます。

## 凡 例

一 本文の表記は、現代かなづかいと常用漢字の使用を原則とし、固有名詞や民俗を表現する言葉については常用漢字以外も使用した。

一 難訓、誤読のおそれがある語句については節の初出に限りふりがなをつけ、固有名詞(地名・人名等)については章の初出にふりがなをつけた。

一 年代は原則として西暦で示し、昭和以前については( )内に日本年号を付した。

一 地域の民俗事象を示す語彙(民俗語彙)は原則としてカタカナ書きで示した。なお、節を単位とし、その語彙が初出であり、適切な漢字表現があれば( )内に漢字で示した。記述内容が市域全般に及ぶもので、同一内容を表現した語彙が複数ある場合は( )内に列記した。なお、行政用語、支配制度に関する用語、仏教用語、神道用語などが民俗語彙化して地域で用いられている場合には、初出に際してはカタカナ表記とし、二回目以降は漢字で示した。また、地域において日常的に親しんでいる漢字表記で、読者も理解しやすいものについては、二回目以降も漢字表記とした。

一 話者の生年や没年については、必要に応じて人名の後の( )内に示した。

凡 例  
一 民俗を伝承している村落をムラと表記し、その地名表示には地域で使用している名称(大字またはその内部のモヨリ)を用いた。地名については該当地域の呼称でふりがなをつけたが、必ずしも市域全域での呼称とは限らない。

例 一 他市町村内の地名については、( )内に現在の市町村名を記した。また、静岡県外の地名については都道府県名も記した。

一 引用文献及び参考文献については、本文中では( )内に著者名と論文名、あるいは著者名と書名を示した。その際、論文名は「」で、書名は『』で示し、巻末に文献の目録を付した。なお、本巻の編さん過程で中間報告として刊行した『深良の民俗』『茶畑の民俗』『葛山の民俗』『富沢の民俗』については、本文内には引用文献として書名を示していない。また、『裾野市史』の他の巻の引用にあたっては書名と巻数だけを示した。

一 植物名、動物名は原則としてカタカナ表記としたが、日常的に漢字が用いられているものは漢字で示した。

一 長文の資料、引用文などについては、行頭より二字分下げて記述した。

一 文字資料を掲載する際には、漢字は常用漢字を用い、変体がな、合字は現代ひらがなに改め、適宜に句読点を付した。また、誤字と思われるものには、原文の右側に(ママ)と記した。

一 図表・写真番号は章ごとに、それぞれ一連番号を付した。

一 引用資料の出版、提供者(機関)名は該当箇所を示した。

一 図表の出版、提供者(機関)名は該当箇所に示し、記載のないものは執筆者あるいは市史編さん事務局が作成した。

一 写真については、本文中の写真タイトルの( )内に地域名を示し、撮影した年が一九八九年以前のものについてはその撮影年を付した。また、写真の所蔵者や撮影者については巻末の写真一覧に撮影した年月とともに記した。

なお、撮影者名や所蔵者名を記していないものは、本編の執筆者あるいは市史編さん事務局が撮影した。

一 本編の執筆者名および執筆分担は巻末に記した。

# 民俗目次

口 絵

発刊のことば

裾野市長 大橋俊二 一

刊行にあたって

裾野市史編さん専門委員 福田アジオ 三

凡 例……………五

序 章 市史と民俗……………元

第一節 歴史と民俗……………三

歴史記述の常識 固有名詞にこだわる地域の歴史 日常生活の歴史と民俗

第二節 市史と民俗学……………三

民俗学の成立 民俗学の方法と地域の歴史

第三節 民俗編の構成……………元

本巻の編成 市域の民俗の特色

第一章 生活環境の民俗

第一節 開発と土地利用

(一) 地域の環境

東西の山岳と南北の道 御殿場線 馬の目坂 「転ばば、下へ転べ」 ヨビヤの  
行先 甲州から来た人々

(二) 土地の環境

ダタラ 井戸の少ない村々 砂利状の火山噴出物 ジンダイボリ 湿田 縄文  
土器 赤土

(三) 集落の環境

サトとヤマ サトの水田 サトの畑作 愛鷹山東麓の集落 環境を遮断する河川  
水田のない集落 新田の開発 水田のない新田 シュクと交通

第二節 山と生活

(一) 共有地としての山

山の共有地 富士山 箱根山 愛鷹山 複数のムラの共有地 下和田と今里  
ニウカイ 売却される共有地

(二) 農業生産のための山

アラクオコシ カイコン 赤土とサツマ カイコンと災害 デサク 大野原の

四

四

四

五

五

六

六

八

(三)	現金収入のための山	.....	九五				
	畑	草刈り場	若い衆の小荷駄	ボンクサとホシクサ	山へ戻る堆肥	愛鷹山	
	のニューカイと大野原	大野原での草刈り	大野原の芝	雑木林と堆肥			
(四)	日常生活のための山	.....	一〇〇				
	農閑期の賃仕事	山仕事	ハコネダケ	ススダケ	大野原のタマヒロイ		
	日常生活のための山	.....	一〇〇				
	カヤバ・カヤノ	茅屋根と火事	杉皮の利用	かわら屋根への変貌	モンキ		
	炭焼き						
第三節	水と生活	.....	一一				
(一)	農業生産のための水	.....	一一				
	黄瀬川と深良用水	深良用水を利用しない水田	ツツミ	自然河川と深良用水の連			
	動	穴堰と水げんか	上郷・中郷・下郷	深良とコウラプセ	堰と堰普請	ヒ	
	ソンバと悪水	水げんか					
(二)	日常生活のための水	.....	一三〇				
	オオカワ	水遊び	雨乞い	井戸の不足とカワバタ	馬洗い場	水車	水源
	とタンク	水の苦勞	簡易水道	山中での水	関東大震災の影響		
第四節	気象の変化と動植物	.....	一五〇				
(一)	気象の認知	.....	一五〇				



(二) 家族とその役割 ..... 三二

家族のかたち 家の切り盛り 嫁と姑

(三) 相続継承と養子 ..... 三六

相続とイセキムスメ いろいろな相続の事例 テヤーマツナギとヨウシトリ ジュ  
ンヨウシとフタヨウシ

(四) 隠 居 ..... 三三

隠居のかたち インキョブンケ インキョとネドコインキョ

第三節 親族とつきあい ..... 三六

(一) 親族をさす言葉 ..... 三六

親族の名称とその範囲 姻戚とエンツナギ

(二) 本家・分家とイットー ..... 三〇

オーヤとシンヤ ツブレヤシキの再興 イットー 下和田の杉本イチゾク 一家  
定書に見られるつきあい

(三) 親族と交際 ..... 三七

ムラシンセキ 祝いごとでのつきあい 葬儀・法事の参列と手伝い 祝いの品と悔  
やみの品 香典帳に見られるつきあい

(四) 親分・子分 ..... 二六

仲人とカネオヤ      オヤブんとコブン

第四節 ムラづきあい ..... 二五三

(一) 村の中のムラ ..... 二五三

村内区分としてのモヨリ      茶畑の村内区分      富沢の村内区分      麦塚の村内区分

(二) 互助と共同 ..... 二五四

トブライグミ      カヤムジン

(三) ムラの組織 ..... 二五六

ムラの集会所      ムラの寄り合い      ムラの役職      ムラの規約

(四) ムラの歴史とイエの歴史 ..... 二五七

七軒百姓のムラ      語られるムラの歴史      エーナが語るイエとムラの歴史      旧戸と新戸

(五) さまざまな集団 ..... 二六四

若い衆宿としてのクラブ      若い衆の祭りと遊び      子供集団と神祭り      年寄りと念仏  
女たちの淡島講

(六) 重層的な村落組織 ..... 二六七

「家統」とモヨリ      石造物に見るモヨリ      変化するモヨリ

第五節 共有と共同 ..... 三〇一

(一) 山をめぐる共有と共同 ..... 三〇一

箱根山をめぐる共有 箱根山をめぐる共同 愛鷹山の共有 愛鷹山の共同 大野  
原の共有

(二) 水をめぐる共有と共同 ..... 三〇

1 深良用水 ..... 三〇

井組の伝統 水配人 水配人の役割 井組から用水組合へ ムラの中の用水管理

2 生活用水の確保 ..... 三六

水源の確保

(三) 農作業をめぐる共有と共同 ..... 三八

イイとヒトデ 共同作業所と水車小屋

(四) 神社・墓をめぐる共有と共同 ..... 三〇

ムラと祭祀 モヨリと祭祀 村の祭祀 ムラを超えた祭祀 ムラの火葬場 墓  
地の共有

第六節 世間の広がり ..... 三三

(一) 交通手段の変化と世間の広がり ..... 三三

世間の広がり 御殿場線と裾野の人々 馬車から自動車へ

(二) 買い物と行商 ..... 三五

買い物 行商

(三) 信仰の広がり与交流 ..... 三七

富士信仰と裾野のムラ 神参りと物見遊山 ムラに入ってくる神仏・宗教者 オオ

ネンブツとオオダイモク

(四) ムラの休日と娯楽 ..... 三四

祭り 露天商 活動写真

(五) 通 婚 圏 ..... 三四五

婚姻の範囲 通婚圏の変化

第三章 時間と生活 ..... 三九

第一節 生活の時間・生産の時間 ..... 三五

(一) 稲 作 ..... 三五

裾野の稲作 生活の中の水と土 水 土 種粃 「三嶋大社のお田打」と種粃

苗代 代掻き 田植え 田植えの時期 イイダウエ 田の草取り 稲の生育

稲刈り・乾燥 脱穀 粃すり 田起こし イナプラと藁の利用

(二)	畑 作 .....	三二
	「ヤマへ行く」 陸稲 モロコシ栽培 須山モロコシ サツマ 茶の生産 チ ヤメン	
(三)	養 蚕 .....	三九
	裾野の養蚕 養蚕の技術 蚕影神社と養蚕	
(四)	林 業 .....	三二
	山と暮らし サキヤマ・キンマヒキ 炭焼き 炭の種類 炭の原木 炭焼窯 炭焼きの工程	
(五)	芝生の生産 .....	三八
	シバハタの広がり 芝生栽培の技術	
(六)	そのほかの生業 .....	三〇
	カセギ	
1	竹 材 業 .....	三二
	竹と生活 竹伐り 行李作り バイスケ作り バイスケ作りの時間 バイスケ の材料となる竹	
2	柿 渋 作 り .....	三六
	柿渋と三島和傘 深良須釜のシブヤ 柿渋生産の時期 柿の種類 柿渋作りの技術	

(七) 民具で見る裾野の生活	四〇二
「百姓」の財産	民具実測図
第二節 一日の生活	四五〇
(一) 仕事の一日	四五〇
時間の目安	田植えの時間
夏	夏の一
冬	山でのサツマ作り
冬	冬の副業
(二) 主婦の一日	四五七
朝の水くみ	アサヅクリ
食事のしたく	食事のしたく
夜なべ仕事	夜なべ仕事
第三節 一年の生活	四六三
(一) 年中行事	四六三
1 正月の行事	四六三
ワカシヨীগヅ	元旦
ハツヤマ	ハツヤマ
ナナクサガイ	ナナクサガイ
初集会	初集会
ニバンシヨীগヅ	ニバンシヨীগヅ
山	山の神講
ハツカシヨীগヅ	ハツカシヨীগヅ
天神講	天神講
2 二月の行事	四七六
ジローノツイタチ	ジローノツイタチ
マメマキ	マメマキ
大山講	大山講
初午	初午
目一つ小僧	目一つ小僧
3 三月の行事	四八一
ヒーナサンの節句	ヒーナサンの節句
コンピラサン	コンピラサン
春の彼岸	春の彼岸
ヨシダサンの引き継ぎと祭り	ヨシダサンの引き継ぎと祭り

4	四月の行事	四八三
	春祭りの始まり	
	浅間神社の春祭り	
	女の子の節句	
	アラシバサンマイリ	
5	五月の行事	四六七
	五月五日	
	八十八夜	
6	六月の行事	四九〇
	農繁期の行事	
7	七月の行事	四九二
	雨乞いと目乞い	
	天道念仏	
8	八月の行事	四九三
	地藏盆と地域の夏祭り	
	ミヨウジンサンボン	
9	九月の行事	四九七
	風祭り	
	深良のヨシダサン	
	月見	
	下和田のヨシダサン	
10	一〇月の行事	五〇〇
	稲の収穫と祭り	
	オヒマチと月見	
11	十一月の行事	五〇二
	冬のしたく	
	七五三	
	エビス講と亥の子のぼた餅	
12	一二月の行事	五〇三

カーピタリ 高尾と秋葉の祭り 正月準備 お飾り作りと餅つき 大晦日の過ごし方 十里木の餅なし正月

(二) 一年の衣生活 ..... 五〇九

1 衣生活と四季の変化 ..... 五〇九

野良着と晴れ着 野良着は普段着 晴れ着

2 衣料の調整 ..... 五二四

繊維の調達 農村の女性とイトとハタ もんへの流行

3 衣生活の知恵 ..... 五二八

イトコドリ 季節や天候に対する衣料

第四節 一生の生活 ..... 五三

(一) 産 育 ..... 五三

1 妊娠と出産前 ..... 五三

子授け トリアゲバアサンから産婆へ 出産の準備 妊娠中の禁忌・俗信 淡島講と安産祈願

2 出 産 ..... 五三六

出産の場 産後の処理 乳付けと産後の清め 出産見舞いとお七夜 宮参り 子捨てと子供の生まれ年

	3	成長過程……………	五三〇
		初節句 一歳までの子育て……………	七五三
		願 子守 疱瘡 子供の病氣 病氣よけ祈願……………	五三〇
	4	子供から大人へ……………	五四五
		子供の日常生活 子供の行事 若い衆入りと青年団 一人前……………	五五〇
(二)	婚 姻……………		五五〇
	1	縁談の成立……………	五五〇
		結婚相手の決定と通婚圏 見合いと恋愛 サケ アシイレ カネオヤ 嫁入り 道具……………	五五九
	2	祝 言……………	五五九
		ムコイレ 嫁入り 祝言 オフルマイ 嫁のムラ入り 里帰り 新婚への泥投げ……………	五五九
(三)	厄年と年祝い……………		五五九
	1	病氣平癒祈願……………	五五九
		公文名のはやり病よけ祈願 はやり病よけの神仏 病氣平癒の祈願……………	五七三
	2	厄年と年祝い……………	五七三
		厄年 年祝い……………	五七四
(四)		葬送の儀礼と墓制……………	五七四



近世の屋敷神調査 中丸の屋敷神 中尾の屋敷神

(三) 近隣の信仰を集める家の神 ..... 六五

家の神から人々の神へ 瘡守稲荷のご利益

第二節 神社と寺院 ..... 六七

(一) 神社と小祠の祭り ..... 六七

重層する神々

1 葛 山 ..... 六七

葛山の神々 浅間神社 タケノカミナリサン 本村でまつる神 各モヨリでまつる神

2 深 良 ..... 六三

二つの深良 赤子神社 深良神社 南堀の八幡神社

3 茶 畑 ..... 六四

多くの神仏をまつる茶畑 浅間神社 山の神 金比羅神社

4 富 沢 ..... 六六

一集落一ムラの富沢 愛鷹神社と山の神

5 その他の地区 ..... 六八

公文名 麦塚 伊豆島田

(二)	寺と堂をめぐる信仰	六五三
	寺院の分布	
1	葛山	六五三
	仙年寺	
	景ヶ島依京寺	
	田場沢の薬師堂	
2	深良	六五九
	深良の四カ寺	
	原の地藏堂	
3	茶畑	六六二
	耕月寺と願生寺	
	滝頭の不動	
	羅漢塚と忠魂碑	
4	富沢	六六八
	富沢のムラと定輪寺	
	堂と庵寺	
5	下和田	六六九
	専修院とその行事	
	盛んな念仏講	
(三)	さまざまの講	六七〇
	不動講と万神講	
	淡島講	
	天神講	
	念仏講	
	題目講	
(四)	天道念仏	六八一
	公文名の天道念仏	
	全域で行われる天道念仏	

第三節 広域的な信仰 ..... 六八九

(一) 念仏講の広がり ..... 六八九

中駿大念仏講 富岡大念仏講 戦没者供養 中駿大題目講

(二) ヨシダサンの信仰 ..... 六九九

地域のヨシダサン 下十カ郷のヨシダサン 深良のヨシダサン 下和田のヨシダサン  
ヨシダサン信仰の起源 ヨシダサン信仰の広がり

(三) 岩船地蔵の流行 ..... 七二〇

今里の岩船地蔵 岩船地蔵の御詠歌 柏木甚右衛門覚書帳の記録 岩船地蔵の信仰  
の展開

(四) 山をめぐる信仰 ..... 七七八

1 愛鷹山と信仰 ..... 七七八

木戸と龍爪講 飯盛山の不動 堂ヶ尾の愛鷹明神

2 箱根山と信仰 ..... 七三三

深良用水と箱根権現の祭り

3 富士山と信仰 ..... 七三五

富士登山道須山口の暮らし 富士峰行者と沿道の村

第四節 石仏の語る信仰 ..... 七三五

(一) 集中して建てられる石仏群 ..... 七三五

石仏の集中する場所 石仏の種類

(二) 時代を超えて建てられる石造物 ..... 七三九

滝頭不動の石仏と石塔 戦争と石碑

(三) 石造道祖神の特徴 ..... 七四四

さまざまな道祖神 南北の相違

(四) 庚申信仰の広まりと庚申塔の造立 ..... 七四九

生きている庚申信仰 庚申塔が示す信仰史

第五節 伝説の世界 ..... 七五七

(一) 伝説の意義 ..... 七五七

伝説と事実 伝説の傾向と特色

(二) 動物にまつわる伝説 ..... 七六一

1 狐 ..... 七六一

①古狐退治 a ②古狐退治 b ③古狐退治 c

④大野原の金キツネと銀キツネ

2	狼	.....	七九
	①尾塚坂の悲しい恋	②孝行娘の悲劇	
3	蜘蛛	.....	七一
	①蜘蛛が池 a	②蜘蛛が池 b	
4	カッパ	.....	七三
	①音女(おとめ)ヶ淵		
5	天狗	.....	七四
	①炭焼小屋の怪物	②小天狗のしかえし	
(三)	事件にかかわる伝説	.....	七六
	①十里木の赤もち	②頼朝の盃	
	④葛山城の伝説	⑤光明寺の不動	
		⑥茶畑の十三塚	
(四)	信仰にかかわる伝説	.....	七五
	①伊豆島田の薬師堂	②きゅうりの伝説	
	③不動の滝の行者		
	④雷山の雨乞い		
(五)	愛鷹山、富士山にまつわる伝説	.....	七三
	①愛鷹山の由来	②富士山の雪だるま	

第五章 社会变化と民俗……………七五

第一節 農業の変化と民俗の変貌……………七九七

(一) 都市化の開始……………七九七

町の出現 人口の急増 農業の変化 佐野の変化 富沢の変化 深良町田の変  
化 須山の芝畑

(二) 墓地と葬儀の変化……………八〇八

旧墓と新墓 葬儀の変化 火葬場 葬儀屋 生活改善の申し合わせ

(三) 年中行事の変化……………八一七

年中行事の改変 ヤドから公民館へ

第二節 市街地の発展と民俗……………八一九

(一) 裾野駅前商店街の形成……………八一九

街道の宿 商店街の形成過程 街の周縁性 変化の経験 駅前商店街南側の街並  
み 駅前商店街北側の街並み 新道商店街の構成

(二) 中心地の変化……………八二三

駅前商店街の変化 商店街の変貌

(三) 天理町の成立……………八四四

(四) 商店街とイベント	.....	八四九
教会の成立と発展	.....	
天理町の成立	.....	
天理教墓地	.....	
東通り商店街	.....	
「すその阿波おどり」	.....	
「すその阿波おどり」の成立	.....	
夏祭り	.....	
第三節 住宅地化の進行と民俗	.....	八五九
(一) ムラとマチ	.....	八五九
ムラの一角のマチ	.....	
ムラ組織と新住民	.....	
(二) 町内会の独立と民俗	.....	八五九
自治会の分離	.....	
新しい自治会	.....	
県営茶畑団地自治会	.....	
千福が丘町内会	.....	
(三) 公民館と広場	.....	八六四
民俗の基盤としての公民館	.....	
遊び場とゲートボール場	.....	
第四節 大規模開発と民俗	.....	八七〇
(一) 団地の成立	.....	八七〇
大規模団地の成立	.....	
団地の配置	.....	
(二) 住宅地の民俗	.....	八七三
住宅団地としての民俗	.....	
千福が丘夏祭り	.....	
ドンドヤキ	.....	

第五節 交通の変化と民俗……………八七

(一) 国道とバイパス……………八七

国道の変化    バイパスの影響    農免道路と生活

(二) 自動車時代の民俗……………八〇

生活の広域化    外食の日常化    市域を超える生活

文献目録……………八五

あとがき……………八一

裾野市史編さん関係者……………八三

図表一覧

写真一覧

索引